

浜松市動物園 再生基本計画

わくわく×ふむふむ‘いのち’を学ぶ動物‘楽’校

平成 28 年 9 月

浜 松 市 動 物 園

目 次

I	浜松市動物園における課題	1
	(1) 我が国の動物園を取り巻く環境の変化	
	(2) 浜松市動物園の開園から舘山寺移転	
	(3) 浜松市動物園が果たしてきた役割	
	(4) 入園者数の伸び悩み	
	(5) はままつフラワーパークの目覚しい再生	
	(6) 新たな動物は入手困難	
	(7) 獣舎や電気機械設備など施設の老朽化	
II	再生の基本的考え方	5
	(1) 目指すべき「3つの柱」	
	(2) 再生の基本的考え方	
III	再生その1 運営の改善に向けて	8
	(1) ‘いのち’の大切さを伝えるために	
	(2) 楽しく学べる場をつくるために	
	(3) 来園者と動物をつなぐ橋渡し役になるために	
IV	再生その2 飼育と展示のあり方	13
	(1) 動物飼育のあり方（コレクションプラン）	
	(2) 動物展示のあり方	
V	再生その3 施設整備の方針	19
	(1) 動物園の表舞台に関わる分野（獣舎・園路等）の整備方針	
	(2) 動物園を支える基盤に関わる分野（電気、機械設備等）の整備方針	
	(3) 施設整備スケジュール	

I 浜松市動物園における課題

(1) 我が国の動物園を取り巻く環境の変化

我が国の動物園は、戦後の復興による都市の発展と合わせ、その数を増やしました。昭和 24 年には、インドのネール首相からゾウが贈られ、移動動物園として全国を行脚。動物園設立ブームに拍車がかかりました。当初の動物園は、檻の中にいる珍しい動物を観賞するレクリエーション中心の施設でしたが、昭和 40 年代に入ると、国内では「動物の保護及び管理に関する法律」が施行され、動物園の飼育環境を見直す動きが始まりました。あわせて、ワシントン条約によって、絶滅の恐れがある動物の商業取引を厳しく取り締まることとなり、野生動物の輸入は一層難しくなりました。

昭和 50 年代後半になると、レジャー施設として、テーマパークや遊園地が台頭し、国内動物園の入園者数は総じて減少し始めました。こうした中で、日本動物園水族館協会（JAZA）は、種の保存委員会を設置し、希少動物の‘いのち’をつなぐブリーディングローン（希少な動物を絶やさず増やしていくために、動物園や水族館同士で動物を貸したり借りたりするしくみ）を始めています。動物園は、戦後復興における豊かさの象徴でしたが、時代を経るに従い、環境保護や動物愛護を重視するように役割が移り変わっています。

動物園の基本的機能は、「レクリエーション」、「教育」、「調査研究」、「種の保存」の 4 点とされています。国内動物園の入園者数が低迷する中で、各地の動物園では試行錯誤を重ね、行動展示への転換や環境エンリッチメント（動物本来の行動ができる飼育環境への改善）の工夫、生命観をはぐくむ教育、地域の生態系に重点を置くなど、4 つの機能を強化させた独自の取り組みを始めています。

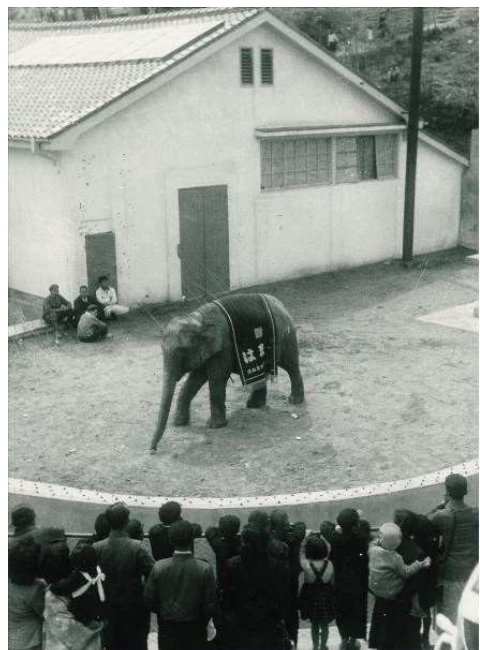
浜松市動物園は、全国と同様の立場にありますが、未だ変革への歩みを踏み出していません。今こそ、再生に向けた新たな一歩が求められています。

(2) 浜松市動物園の開園から館山寺移転

昭和 25 年。浜松市動物園は県内初の動物園として浜松城公園内に開園しました。本市の中心部にあって、ゾウやキリンなどの珍しい大型動物を気軽に見学できる施設であり、多くの市民に愛されてきました。

開園から約 30 年が経過したころ、獣舎などの施設に傷みが顕著になり始めました。市内適地への移転も視野に入れ、再整備を検討したところ、現在の場所であるフラワーパークの隣に移し、一体的な館山寺総合公園として整備することに決定しました。

新しい動物園は、前園の 6 倍の広さがあります。無柵放養式の展示を取り入れ、緑豊かな森を散策しながら動物たちを見学でき、家族連れで楽しめる施設として人気を博しました。



初代ハマコ。珍しい大型動物は多くの人を魅了した

(3) 浜松市動物園が果たしてきた役割



こども博からスタートした浜松市動物園

浜松市動物園は、これまでの動物展示やいのちの教育などを通して、次の3つの役割を果たしてきました。

まず1つ目は、動物たちを通じて、いのちの大切さ、自然との共生など市民の生命観をはぐくんできました。動物園では、生と死という‘いのち’の循環が日常的に展開されています。いのちの大切さを伝える上で、また、死を理解する上で、格好の素材があります。動物たちの生きる姿を通じて、自然環境に関する学習機会を提供し、来園者の生命観を育み、心豊かな市民を育てていくことができる施設です。動物愛護教育センターを開設した後は、希少動物だけでなく、犬や猫など身近

な動物たちを通じた、いのちの教育も展開しています。

2つ目は、子どもも大人も理屈抜きに楽しめる最も身近な施設として、市民に笑顔と感動を届けてきました。動物たちの生態や行動を魅力的に紹介することで、子どもだけでなく、大人にも、新たな驚きや感動を与えることができます。観光地に立地し、半日あれば十分に楽しめる施設として、子育て世代をはじめ、家族に幸せな笑顔をもたらし、思い出の1ページをつくってきました。平成28年には、開園65周年を迎えます。市民の多くの皆様が一度は訪れたことがある、なじみ深い公共施設であることは間違いありません。

3つ目の役割は、市民の動物愛護や自然保護への関心を高め、希少動物の保護や種の保存に貢献してきたことです。野生動物を海外から購入することが困難になる中、国内動物園は、ブリーディングローンなどによって種を保存する重要な責務を担います。浜松市動物園は、JAZA加盟の公立動物園として希少動物の繁殖に取り組むとともに、野生動物の絶滅の危機を訴えるなど、自然環境や動物保護への関心を高めています。

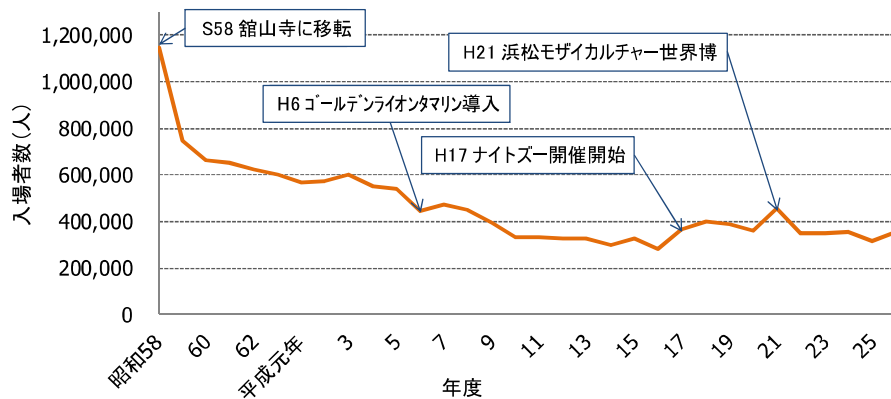
(4) 入園者数の伸び悩み

114万人。移転当初（昭和58年度）に数えた年間入園者数です。その後の入園者は年々減少の一途をたどり、平成26年度の入園者数は35万人、ピーク時の3分の1を下回ります。入園者の減少は、長年、懸案として挙げられてきましたが、部分的な施設改修は行われてきたものの、ハード、ソフトともに抜本的な改革が行われず、現在に至っています。

一方で、日本平動物園や豊橋総合動植物公園などの近隣都市の動物園では、リニューアルなどを通して、入園者増加に向けた取り組みが行われており、一定の成果を収めています。こうした中で、浜松市動物園は、県内最古であるにもかかわらず、「はたして浜松に必要か」と動物園の存在自体を問われる意見もあり、課題1)施設としての目指すべき姿が明確に定まっていません。

◎課題1：浜松市動物園の目指すべき姿が明確になっていない。

浜松市動物園の入園者数の推移（館山寺移転後）

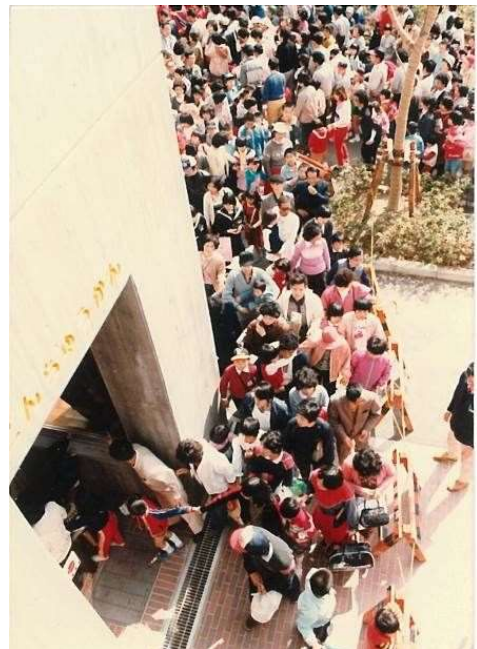


(5) はままつフラワーパークの目覚ましい再生

隣接するはままつフラワーパークは、昭和 45 年に開園し、まもなく 50 周年（平成 32 年）を迎えます。「花の図書館」として四季折々の美しい花の彩りで、開園当初は多くの来訪者を呼び寄せましたが、これまで順風満帆に施設運営を進めてきたわけではありません。

ちょうど動物園が移転した昭和 58 年がピークでした。以後、入園者は徐々に減少し続け、平成 23、24 年度は 30 万人を下回りました。これにより、いよいよ将来を考えて、施設廃止も視野に入れられました。

民間の創意工夫を取り入れる。新たな改革が必要とされたフラワーパークに、平成 25 年度から指定管理者制度を導入しました。この改革は見事なものでした。変動料金制の導入、変化に富んだイベントの開催、観察通路の徹底した美化などにより施設は一新。「世界一美しい桜とチューリップの庭園」とコンセプトを定め、お客様に感動を与え続けることにより、平成 26 年度は、開園以来最高となる 77 万人の入園者を数えました。



昭和 58 年 館山寺へ移転開園した

フラワーパークは再生を果たしました。課題 2) 動物園にも民間活力の投入など運営改善が必要ではないのか。隣り合う施設同士で比較対象とされています。また、課題 3) フラワーパークと一体的な運営を進めることで、無駄を省き、効果のある来園者サービスを提供できるのではないのか。動物園に対して、新たな変革が強く求められています。

◎課題 2：指定管理施設に負けない運営改善の取り組みが必要である。

◎課題 3：動物園とフラワーパークとの一体的・効率的な運営が必要である。

(6) 新たな動物は入手困難



ゴールデンライオンタマリン

ゴールデンライオンタマリン。黄金の毛並みが美しい小型の霊長類です。我が国では浜松市動物園でしか見ることはできません。平成6年、希少種の保護に協力する園として、浜松市動物園は、ブラジルから雄のリオと雌のリカのペアを受け入れました。このカップルは相性が良く、浜松市動物園で40頭の子どもたちが生まれ、その後、繁殖計画の一環で9頭が海外へ旅立っていきました。現在、ゴールデンライオンタマリンは、雄のみ4頭を飼育中です。しかしながら、カップルとなる雌を受け入れることはかなり難しくなっています。国内動物園間のブリーディングローン、また、国境を越えた種の保存に向けた取り組みは、今後も益々重要になってくるものと考えられます。

ワシントン条約により、絶滅のおそれのある野生動物の商業取引はできなくなりました。今後は、課題4) 新たな動物を購入することは困難となる中で、将来の飼育動物をどのように定め、動物園としてどのように存続するのか明確な方針が求められます。

◎課題4：継続可能な動物飼育の方針（コレクションプラン）を立てる必要がある。

(7) 獣舎や電気機械設備など施設の老朽化

浜松市動物園は開園から約30年で舘山寺総合公園に移転しました。現在、その移転から約30年以上が経過しています。獣舎などの建物、電気設備、機械設備などの劣化が著しく、運営を継続するためには、施設・設備の建て替えや更新が必要です。また、来園者のアンケートからも、動物展示の工夫や高低差の改善、休憩施設の整備などの意見が寄せられています。

課題5) すべての施設についてリニューアルを進めるとなると、莫大な費用が必要になるのではないかと危惧されています。整備にあたっては、工事の優先度や整備の効果を十分に検討した計画的な改修が求められます。

◎課題5：施設改修はコスト削減に努め、優先度や効果を充分考慮して進める必要がある。

Ⅱ 再生の基本的考え方

(1) 目指すべき「3つの柱」

浜松市動物園の目指すべき姿として、次の3つの柱を立て、重点的に取り組みます。

◎ 動物たちを通じて‘いのち’の大切さを伝えます

- 「いのちの教育」事業は平成22年度からスタートしました。ホッキョクグマのジェイソンが浜松市動物園で‘いのち’を全うした姿を映像化し教材として、いのちの大切さを伝えたのが始まりです。浜松市動物園が独自に制作した教材は、今も小中学生への教材として取り扱われており、更に習熟度に応じたあらたな教材を作成しています。
- ナイトズーや動物学習教室などのイベントを通じて、楽しみながら学ぶ機会を子どもたちに提供しています。
- 平成26年、動物愛護教育センターを開設しました。犬・猫などの身近な動物を題材として、新たな切り口から「いのちの教育」に取り組んでいます。
- 動物たちを通じて‘いのち’の大切さを伝えることは、動物園の重要な役割です。
- 「いのちの教育」を動物園の最大の柱とし、スタッフ全員で‘いのち’の大切さを伝え、来園者に豊かな心をはぐくみます。
- 動物たちが健康に過ごせるよう飼育環境に配慮するとともに、動物の福祉（エンリッチメント）を踏まえた施設のリニューアルを進めます。



出前講座の様子

◎ 来園者が楽しく学べる場をつくります

- 動物園には98種389点（平成27年9月）の動物たちがいます。とりわけ、霊長類が多いのが特長ですが、ゾウ、キリン、ホッキョクグマなどの大型動物も飼育しています。
- 海外からの輸入が困難な動物種が増えている中で、野生動物を新たに増やすことは困難です。このため、国内の動物園間のブリーディングローンを勘案しながら、継続して飼育する動物種を絞込みます。
- スタッフは、飼育動物の日常の行動を楽しく伝え、学校や来園者の意見を取り入れながら展示内容を常に改善します。
- 改善を通じて得られた展示手法のノウハウを活かして、より楽しく学べるよう効果的な施設のリニューアルを行います。

- 施設のリニューアルは、既存施設を出来る限り活用し段階的に実施します。
- 来園者から要望の多い休憩所の設置や全天候型施設、高低差解消などについても順次対策を進め、来園者の利便性と快適性を高める施設整備を行います。

◎ 来園者と動物たちをつなぐ橋渡し役になります

- 動物たちと来園者をつなぐスタッフの意識を変えます。
- 「いのちの教育」に重点を置き、動物たちを魅力的に伝える展示に工夫を凝らします。また、スタッフは、いつも明るい笑顔で、来園者の方々と積極的に対話します。
- スタッフ全員が来園者と動物をつなぐ橋渡し役となり、来園者の疑問に何でもお答えします。
- 動物たちの健やかな姿を展示するためには、治療と飼育のスキルを向上するとともに、環境エンリッチメントに工夫を凝らすことが必要であり、スタッフは専門性を高めていきます。
- 動物の生態や日々の様子の変化などを、積極的に発信します。また、園内で活動するだけでなく、幼稚園や小学校などへ、動物園から飛び出していのちの大切さや不思議さを直接伝えます。
- 大学、企業やフラワーパーク、周辺地域などと積極的に連携、協力を進めることで動物園の新たな可能性を開きます。



ポニーのお散歩

(2) 再生の基本的考え方

浜松市動物園は、「3つの柱」に重点的に取り組み、学校や家庭では伝えきれない、動物たちのいのちのすばらしさ、大切さを学べる、市内唯一の教育施設として再生を目指します。また、動物展示や学習活動に創意工夫を凝らし、来園者の満足度を向上させるとともに、コンパクトで効率的な運営を実現します。

【キャッチフレーズ】

わくわく×ふむふむ ‘いのち’ を学ぶ動物 ^{がっこう} ‘楽’ 校

【基本的な方向性】

動物たちのいのちのすばらしさ、大切さを楽しく学べる、市内唯一の教育施設として、動物園の再生を目指す

キーワードは「わくわく」と「ふむふむ」。楽しく学ぶことです。大型動物から身近な犬猫まで、動物‘楽’校にはいろいろな動物がいっぱい。動物たちは、かけがえのない‘いのち’を持っています。

市民自慢の動物の健やかな姿を多くに方々に見てもらい、‘いのち’の大切さを心に焼き付けます。子どもたちが“わくわく”する楽しさいっぱいの動物園、大人を含めた来園者が“ふむふむ”と‘いのち’の不思議を学べる‘楽’校として再生を果たします。

Ⅲ 再生その１ 運営の改善に向けて



動物たちの行動に興味が注がれる

子どもたちが“わくわく”する楽しさいっぱい動物園、大人を含めた来園者が“ふむふむ”と‘いのち’の不思議を学べる‘楽’校とするために、スタッフは、知恵を絞り、汗をかきます。

動物たちの‘いのち’を伝える方法、来園者が楽しく学べ、満足度を高める手法など、再生を果たすために必要な具体的なソフトの取り組みを、重点とした３つの柱ごとに掲げます。

入園者数は「年間 **40 万人以上**」を継続して確保し、入園者の増加が施設改善へとつながる好循環を生み出すことができるよう、努力を続けます。

(1) ‘いのち’の大切さを伝えるために

◎「いのちの教育」プログラムを拡充し、スタッフ全員が授業を行います。

- ・ 「いのちの教育」プログラムを浜松市動物園のメイン事業に位置づけます。飼育動物などのタイムリーな話題に対応できるように動画を活用した教育プログラムを整備します。
- ・ 園内ガイドについては、来園者の要望などに合わせたモデルコースを設定します。ガイド・接客のスキル向上とともに、ガイドラインの作成によるシステム化を行い、スタッフ全員が対応できるようにします。
- ・ 接客に力を入れる一方で、スタッフは、飼育動物の生態と生息環境について研究を掘り下げ、治療や飼育についても専門力を高めます。
- ・ 接客、飼育、治療のスタッフ能力向上に向けて、他園への派遣や外部講師による研修を行うとともに、「いのちの教育」を担当する動物愛護教育グループの設置を検討します。

イマズグ PJ(プロジェクト)	☆「いのちの教育」プログラムの拡充(毎年更新)
チャレンジ PJ (概ね 10 年で実施)	★動物愛護教育グループの設置 ★園内ガイドモデルコースの設定(ガイドラインの整備) ★他の動物園への派遣研修 ★外部講師による接客・飼育・治療に関する研修会の開催

◎動物愛護の精神を普及させ、犬猫の生存率を高めます。

- ・ 犬猫の譲渡会やイベントなどを通して、動物愛護教育センターの機能を拡充し、動物愛護の精神の浸透を図ります。
- ・ 「いのちの教育」プログラムに、身近な犬猫などの愛護動物を題材とし、‘いのち’

の大切さを伝えていきます。

- 動物愛護教育センターのふれあい室を活用して、来園者と犬猫のふれあえる場をつくるなど取り組みを推進します。
- 地域の専門学校や動物病院と連携して、愛護動物の健康相談やしつけ教室などのイベントの開催を検討します。

イマスグ PJ	☆動物園と動物愛護教育センターによる連携イベントの実施 ☆犬猫とふれ合える場の提供
チャレンジ PJ (概ね 10 年で実施)	★「いのちの教育」プログラムの題材に犬猫を入れ込む ★専門学校や動物病院と連携したイベントの開催

◎スタッフの専門力を高め、100 年後も「いのち」をつなぎます。

- 動物に対するストレスの軽減や、環境エンリッチメントの研究に力を入れ、浜松市動物園の取り組みを全国に波及させます。飼育や治療の研究成果発表会を園内で来園者の皆様に公開します。
- 展示や飼育の研究・実践を柔軟な発想を持って進めるとともに、獣舎や動物病院など治療、飼育に必要なバックヤードの環境を整えます。
- 動物の負担軽減やスタッフの育成のため、休園日の導入を検討します。
- 地域に生息する動物に関しても研究を掘り下げ、種の保存への貢献や自然還元の取り組みにも挑戦します。

イマスグ PJ	☆動物病院・スタッフ控え室などのバックヤードの美化徹底
チャレンジ PJ (概ね 10 年で実施)	★飼育や治療の研究成果発表会の開催 ★休園日の設定 ★地域に生息する動物の研究

(2) 楽しく学べる場をつくるために

◎スタッフ全員で動物「楽」校を明るくします。

- 笑顔一杯のあいさつでお客様を迎え、お帰りの際には感謝の意を表します。明るいあいさつを徹底するため、連絡会であいさつの唱和を繰り返し実施します。
- 園路などお客様の動線をスタッフ全員が確認するチェック表を作成し、園内美化に努めます。
- スタッフのユニホームは、機能性とデザイン性の優れた服装に一新し、スタッフであることが来園者から一目で分かるものとします。
- 大型モニターを最新設備に更新し、映像で動物たちの行動を映し出します。



ブリーディングローンにより、ホッキョククマのパフィン、天王寺動物園に向かい、おびひろ動物園からキロルがやってきた

- 毎日の連絡会を通して、お客様からのご意見や苦情の内容をスタッフ全員が共有し、早期改善に努めます。
- バックヤードとなる事務室の清掃も徹底し、常にお客様から見られている意識を高め、いつでもどこでも来園者をお迎えできる体制づくりに変革します。

イマスグ PJ	☆笑顔であいさつ運動 ☆園内美化の徹底(場所別・時間別チェック表の作成) ☆お客様からのご意見・苦情の内容の共通把握 ☆事務所・控え室の清掃美化
チャレンジ PJ (概ね 10 年で実施)	★機能性とデザイン性に優れたユニホームに一新 ★大型モニターの増設

◎イベントや展示に変化を加え、お客様の満足度を高めます。

- ナイトズーなどの特別イベントを四季に応じて定着させます。また、特別展や特別講演会の実施により来園者サービスを高めます。
- 動物を紹介する展示看板などは、‘いのち’を学ぶ機会として、行動や生息地などを分かりやすく展示するとともに、新しい情報を提供できるよう更新を繰り返します。
- スタッフは作業中であっても常にお客様を意識して笑顔を園路側に向けるようにします。

イマスグ PJ	☆分かりやすい展示に更新
チャレンジ PJ (概ね 10 年で実施)	★特別イベントを年 4 回定着させる ★特別展・特別講演会の実施

(3) 来園者と動物をつなぐ橋渡し役になるために

◎市内の幼稚園・保育園・小中学校との連携を強化します。

- 市内の幼稚園や保育園、小・中学校を対象とした「動物園だより」を作成し、動物園のタイムリーな話題を提供します。特別展示などのスケジュールを広くアピールし、来園を呼びかけます。
- 遠足や校外学習の場として、今以上に動物園を利用してもらうため、アンケート結果をもとに学校側の要望に応じていきます。
- 子どもたちが動物について学んだ成果を発表する場として、動物園の利用を呼びかけます。
- 教職員を対象とした「いのちの教育」プログラム学習会を開催して、普及啓発に努めます。
- 市内の幼稚園や保育園、小学校の教職員との定期的な連絡会などを開催し、意見交換を通じて動物園の役割の一つである「教育への貢献」の向上を図ります。

イマスグ PJ	☆「動物園だより」の発行 ☆学校側の要望を反映した遠足イベント・校外学習プログラムの改善
チャレンジ PJ (概ね 10 年で実施)	★「いのちの教育」プログラム学習会の開催 ★教職員との定期的な連絡会の開催

◎メディア・SNS を使いにします。

- 動物園の広報戦略を徹底して行うため、広報担当グループの設置を検討します。
- Facebook、Twitter、Youtube など SNS を活用し、動物たちの日常を発信します。また、教育や広報・展示などに必要な機材を取りそろえ、飼育動物の動画や写真をストックしオープンデータ化します。
- メディアとの連携を通して、「わくわく×ふむふむ」を PR します。

イマズグ PJ	☆SNS を活用して動物たちの日常を発信 ☆メディアとの連携
チャレンジ PJ (概ね 10 年で実施)	★広報展示に必要な機材の購入 ★動画・写真のオープンデータ化

◎インバウンド(外国人旅行者)への対応を強化します。

- 浜名湖に面した立地条件を活かし、インバウンドの受け入れを強化します。また、園内看板の外国語表記の充実、パンフレットの多言語化を進めます。
- 園内にフリーWiFi のサービスを拡充します。

イマズグ PJ	☆園内看板の外国語表記の充実 ☆パンフレットの多言語化
チャレンジ PJ (概ね 10 年で実施)	★外国人観光客向けの動物ガイドの実施 ★民間活力を利用したフリーWiFi の整備

◎はままつフラワーパークや大学、企業などとの連携を強化します。

- はままつフラワーパークとは、展示効果をそれぞれ独自に高めるため、経営を別にして運営します。相互連携は調整会議などを通して緊密に行い、植物園と動物園が隣り合う効果を最大に発揮できるよう連携イベントの実施を検討します。
- 入園受付や園内清掃などの共通業務を、舘山寺総合公園全体の指定管理業務とし、効率的な管理運営を推進します。
- 地域の大学との連携に関しては、インターンシップや職場体験などを積極的に受け入れます。デザインや教育、動物飼育の観点において、地域の大学などと連携し、協働による効果を発揮します。
- 企業等に対しては、動物園の必要性をご理解いただき、動物園における CSR（企業の社会的責任）の取り組みを促進します。



アミメキリンのリョウとシウンの間に、平成 27 年にゴロウマルが誕生した

イマスグ PJ	☆はままつフラワーパークとの相互連携 ☆インターンシップ・職場体験の積極的受け入れ
チャレンジ PJ (概ね 10 年で実施)	★地域の大学との連携 ★企業の CSR 促進

◎NPO 法人浜松市動物園協会や浜名湖かんざんじ温泉観光協会など関係団体との協力関係を強化します。

- NPO 法人浜松市動物園協会との連携を強化し子どもたちの学習会などの園内イベントを充実させます。
- ボランティア活動に参加する市民を増やし、園内ガイドやイベント等に活躍する人材を育成します。
- 浜名湖かんざんじ温泉観光協会との連携を強化しイベントの同時開催や共同広報などを実施します。



チンパンジーのジュン

イマスグ PJ	☆子ども向け学習会の実施 ☆ボランティア人材の育成 ☆共同広報の実施
チャレンジ PJ (概ね 10 年で実施)	★舘山寺連携イベントの検討

Ⅳ 再生その２ 飼育と展示のあり方

(1) 動物飼育のあり方（コレクションプラン）



アムールトラのテン。無邪気なところが残る

野生動物の個体数の減少や国際条約の取り決めなどにより、野生動物の入手は、年々困難さを増しています。こうした中で、中長期的な視点で飼育する動物種のあり方を検討することは、魅力的で特色あふれる動物園を続けるために極めて重要となります。

ここで、キャッチフレーズとした「わくわく×ふむふむ『いのち』を学ぶ動物『楽』校」を目指し、将来にわたって、来園者が楽しく学び、より魅力的に感じることをのける飼育動物の展示を創造するため、飼育動物種類の方針（コレクションプラン）を定めます。

① 野生動物の状況

◎輸入は困難になっている。

- 個体数の減少により、世界的に規制（原産地国内法、国際条約など）が厳しくなり、野生動物の輸入は困難となっています。
- 感染症対策などにより、サル類の輸入が制限されています。
- 動物福祉の観点から飼育には国際的な管理基準が定められている場合があり、輸入時に基準を満たす必要があります。浜松市動物園では、過去に施設的な基準を満たせず輸入できないことがありました。

◎園館相互のブリーディングローンが行われている。

- トラ、キリン、ホッキョクグマなどの希少動物、血統管理動物は、相互の飼育園館の調整によってブリーディングローンを行い、種の保存を進めています。
- 種の血統管理（近親交配の回避）のため、ブリーディングローンを行う事例もあります。
- 浜松市動物園も国内園館の一員として、適切なブリーディングローンの役割を担います。

◎他の園では、バックヤードを広くするとともに群飼いを行う傾向にある。

- 一代限りの飼育と継続的な繁殖を図る飼育とでは、1頭あたりに必要とされる飼育施設の面積が異なります。
- 世代交代を行う場合、展示施設のほかに出産、子育て、治療などを行うバックヤードが必要であり、動物福祉の観点からもその必要性が高まっています。
- 展示動物点数を減らしペア・群飼いを行うために、1種類当たりの占有スペースを大きくする傾向が強くなっています。

②コレクションプランの検討に必要な観点

◎飼育継続の可能性

- 個体確保の容易性：飼育動物が死亡した場合に新たな補充が容易かどうか、また、繁殖のためのペアリングが可能かどうか。
- 国内繁殖計画との協調性：JAZAなどが定める繁殖計画と協調しているか、浜松市動物園として種の保存に果たす責務はないか。
- 飼養管理の容易性：特別な設備や高額なエサ、必要以上の人手がかからないか。

◎特色の反映

- 動物園機能の維持（教育の観点）：‘いのち’のあたたかさ、大切さを伝える動物か。展示を通じて生命の尊厳や環境保全の重要性を伝えることができるか。ふれあいの対象となる動物かどうか。
- 動物園機能の維持（レクリエーションの観点）：人気動物か。本に出てくる動物か。
- 動物園機能の維持（種の保存の観点）：絶滅を防ぐため、種の保存に必要な動物か。
- 動物園機能の維持（調査研究の観点）：生息環境に近づける飼育技術を向上できる動物か。
- 特色の反映：霊長類の展示を充実させる動物か。
- コンパクト化：展示面積や必要経費をコンパクト化するものか。



レッサーパンダのチイタ

③コレクションプランの基本的考え方

◎ライオン、トラなど、見て楽しい人気動物に加え、比較展示、行動展示も可能な動物を中心とします。

◎霊長類(サル)のなかで個体確保が容易な種類の展示を充実します。

◎‘いのち’のあたたかさを感じることができるふれあい動物や、環境教育に必要な動物を取り入れます。

④飼育展示動物

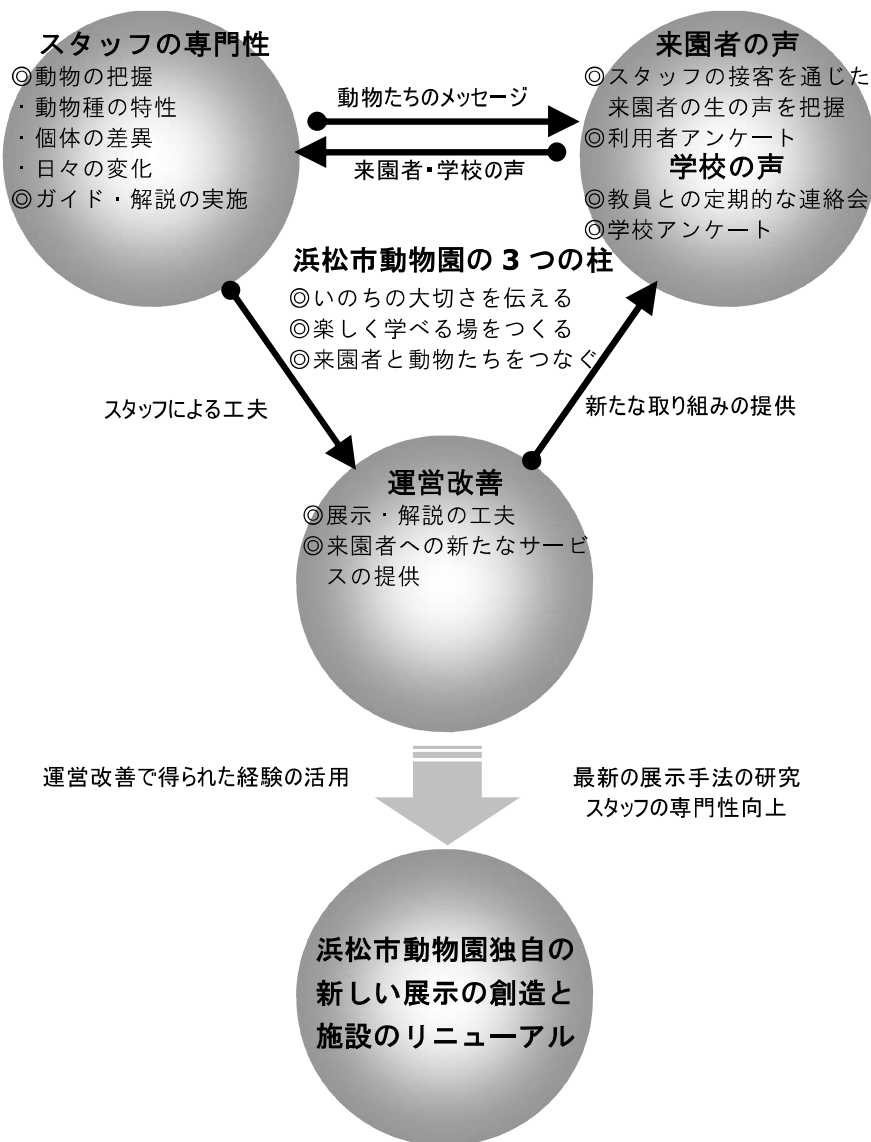
コレクションプランの基本的な考え方に基づき、現在の 98 種から 78 種に段階的に絞り込んでいきます。

網	目	主な動物種	H27.9 現在		計画	見直し対象種
哺乳	ゆうたい 有袋	クロカンガルー	2 種		1 種	パルマワラビー
	れいちょう 霊長	チンパンジー	21 種		19 種	キイロヒヒ／アジルクテナガザル
	ウサギ		1 種		1 種	
	げっし 齧歯	アメリカビーバー	4 種		3 種	マーラ
	食肉	ライオン	12 種		10 種	マレーグマ／タイリクオオカミ
	ききやく 鯨脚	カリフォルニアアシカ	1 種		1 種	
	ちようび 長鼻	アジアゾウ	1 種	⇒	1 種	
	きてい 奇蹄	ポニー	3 種	⇒	3 種	
	ぐうてい 偶蹄	アミメキリン	8 種	⇒	7 種	ホンシュウジカ
鳥	ダチョウ	ダチョウ	1 種	⇒	1 種	
	ヒクイドリ	エミュー	1 種	⇒	1 種	
	ペンギン	フンボルトペンギン	1 種	⇒	1 種	
	コウノトリ	ショウジョウトキ	3 種	⇒	1 種	シロトキ／アフリカクロトキ
	フラミンゴ	ベニイロフラミンゴ	2 種		2 種	
	カモ	アヒル	10 種		8 種	オナガガモ／ツクシガモ
	タカ	ハクトウワシ	6 種		5 種	ヒメコンドル
	キジ	インドクジャク	11 種		3 種	サンケイほか
	ツル	マナヅル	2 種		1 種	ハゴロモツル
	ハト	ジュズカケバト	2 種		2 種	
	スズメ	キュウカンチョウ	1 種		1 種	
	オウム	ゴシキセイガイインコ	2 種		2 種	
	フクロウ	ワシミズク	3 種		3 種	
計			98 種		78 種	

(2) 動物展示のあり方

動物園の展示方法は動物園の特色を決める重要な要素です。全国で試みられている展示手法についての研究を進めるとともに、再生その1の運営の改善を進める中で得られた展示、解説のノウハウを基に、「いのちの大切さを伝える」「楽しく学べる場をつくる」「来園者への橋渡しをする」の3つの柱に対応した浜松市動物園独自の新たな展示手法を創造します。

◎動物の展示改善のサイクルと新たな展示の創造



運営の改善が入園者数の増加へとつながる好循環を生み出し、そこで得られた経験をもとに施設のリニューアルを行うことで、更なる入園者数の増加へとつながるよう動物園職員が意思を共有し、目標に向かって努力を続けます。

※※※動物園の3つの柱に対応した展示の例※※※

①いのちの大切さを伝えるために

◎ふれあいゾーンの集約・拡大

- 園内に分散している家畜（ウサギ、ヤギ、ロバ、ラマなど）をエントランス周辺に集約し、動物たちとふれあえるエリアを創造します。
- 動物愛護教育センターの犬猫など身近な動物との正しい接し方を通じて、「いのちの教育」を充実させます。
- 動物の新規導入も含めて、いのちの大切さを伝える展示の充実を図ります。
- ふれあいのできる家畜の飼育と飼育員による解説の充実など教育効果を高める展示を充実させます。
- 全天候型の施設を併設し、遠足などの受け入れに対応します。



上野動物園のふれあい広場

◎動物の福祉に配慮した獣舎の設置

- バックヤードを確保した獣舎とし、使用材料についてもコンクリートから土などの自然素材へ見直します。
- 動物用の遊具（立体遊具）を設置するなど、飼育動物が快適に過ごすことができるように配慮します。
- ペア形成に配慮した獣舎にします。



チンパンジー用立体遊具（東山動植物園）

②楽しく学べる場をつくるために

◎動物の特性・生態・行動を観察できる展示

- 動物の行動に合わせ、多面的な視点から観察できる立体展示（類人猿などの猿類、クロヒョウなどの中型猫科動物）を取り入れます。
- 行動展示（木登りや水中での行動を観察できる）を取り入れます。
- スタッフが解説板や展示スペースに改善や工夫を施します。

◎生息地など動物たちの生き様を学べる展示

- 動物園で楽しく動物を観察することで、結果として、動物の生息地環境や生態を学ぶことができる展示を取り入れます。
- レッサーパンダ、カナダヤマアラシ、アシカ、ペンギンなどについて、獣舎を動物の特性に合わせて設計します。



京都市動物園

◎生息環境再現型展示

- 飼育動物を生息地別にまとめ、動物が本来生息している環境を再現します。
- 堀などを活用し、複数種の動物を概観させるパノラマ展示を導入します。
- 野生下で群れ生活している動物は、その社会性のある行動が観察できるよう群れで飼育します。
- アフリカゾーン（キリン、シマウマ、ダチョウ、ミーアキャット、アフリカタテガミヤマアラシ）
- 北アメリカゾーン（バイソン、ビーバー、カナダヤマアラシ）
- 日本産動物展示ゾーン（シカ、イノシシ、ヒグマなど）



アメリカバイソンの群れ展示（東山動植物園）

③来園者と動物たちをつなぐために

◎スタッフの専門性を活かした展示

- 飼育動物と来園者の橋渡し役として、動物種の特性にとどまらず、個体による差異や日々の変化など、飼育員ならではの情報を伝える展示・解説を行います。
- 飼育員によるミニガイド、展示場付近の解説板の工夫などを積極的に実施し、動物の特性（種の特性・個体の特性）を引き出す展示への改善を常に行います。

◎他園、近隣施設との連携

- ブリーディングローン、種の保存の取り組みなど他園との協力連携の事例を来園者に伝えます。
- はままつフラワーパークなど周辺施設との連携による展示効果を向上させます。（生息地環境の再現のための植栽管理やエサや敷き藁などの提供、温泉の利用など）

V 再生その3 施設整備の方針

館山寺総合公園に移転開園後 32 年が経過しており、獣舎などの建物や電気設備、機械設備などの劣化が激しい状況です。老朽化が個々の施設すべてにわたっていることから、再整備に当たっては、その緊急度や優先度を考慮しながら、計画的にリニューアルを進める必要があります。また、園全体の改修には多額の費用が見込まれることから、コスト削減を目指すことが必須条件です。

そこで、次の点を基本的な考え方とし、再生に向けた施設整備の方針を定めます。

◎大規模な造成は行わず、現状の敷地形状(園内中央部のボリュームゾーン(標高 30 メートルエリア)の有効利用)を踏まえた整備を行います。

◎修繕・改修して使える既存施設は、できる限り活用します。

◎動物園の表舞台に関わる分野(獣舎・園路等)と動物園を支える基盤に関わる分野(電気、機械設備等)を区分し、それぞれに整備方針を定めます。

◎施設整備や効率的な維持管理に、民間活力を取り入れるよう努めます。

(1) 動物園の表舞台に関わる分野(獣舎、園路等)の整備方針

①ゾーニング

◎ふれあい・教育効果の向上を図るゾーン(=いのちのふれあいゾーン)

- ・ エントランス付近に設定し、動物愛護教育センターとの連携効果を発揮させます。
- ・ 園内で飼育している家畜や、敷地内にある動物愛護教育センターの犬猫などとふれあいを通じていのちの大切さを伝える展示の充実を図るエリアとします。



あったらいいなこんな動物園
(中学生の部 伊澤 那桜)

◎動物種による違いを比較するゾーン(=類人猿ゾーン／バードゾーン／水辺の動物ゾーン)

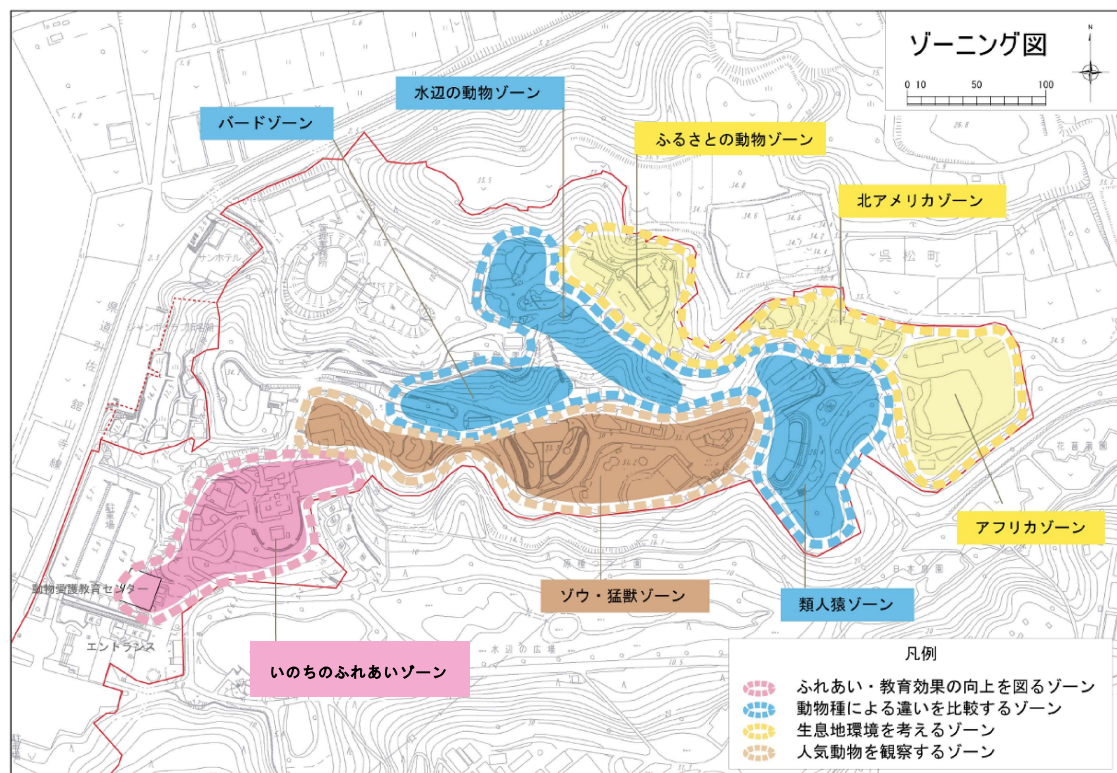
- ・ 動物ごとの生態や行動を比較・観察できる展示エリアとします。

◎生息地環境を考えるゾーン(=ふるさとの動物ゾーン／アフリカゾーン／北アメリカゾーン)

- ・ 動物を生息地別にまとめ、動物が本来生息している環境の再現をすることで教育効果の向上を図るエリアとします。

◎人気動物を観察するゾーン(=ゾウ・猛獣ゾーン)

- ・ 動物園の人気動物を近くで見ることができるエリアとします。



②動線計画

◎現在の順路を基本動線に設定

- 順路沿いに一周することで、一筆書きですべての動物を見ることができるよう順路を設定します。
- 帰り道が下り坂となるようにします。
- リピーター、短時間周遊者のために短縮路を新設します。

◎来園者順路と管理動線の識別を明確化

- 接触事故を防止するため、順路と車両動線はできる限り分離します。
- 来園者と飼育員が交流できるように配慮します。

◎高低差解消

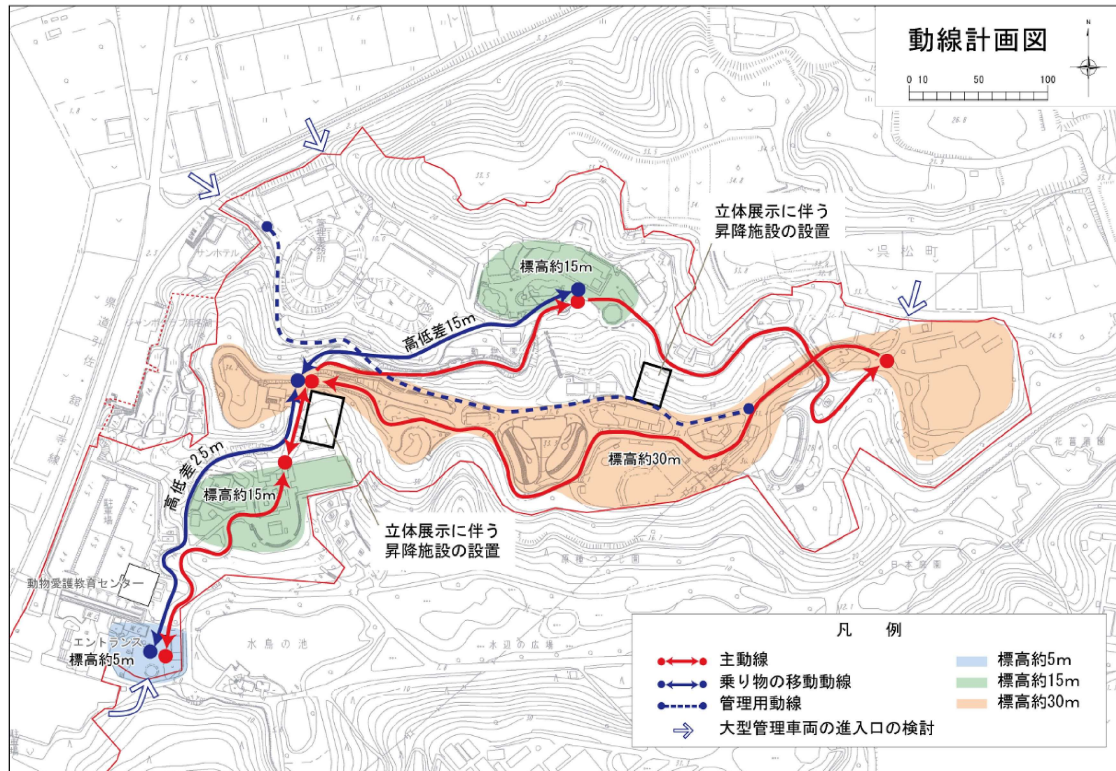
- 動物を多面的にみられるような獣舎を設計し、緩やかなスロープで見学しながら登る仕組みを導入します。
- 高低差のある場所に、「ふれあい動物」を配置して、楽しみながら歩ける仕組みを導入します。
- 乗り物の導入を検討します。高低差解消エリアのみで効率的な運用を検討します。



マザー牧場の周遊バス

(例：エントランス～昆虫館上／ホッキョクグマ～昆虫館上)

- エレベーターの設置を検討します。(例：猛禽舎付近→サル山／水禽舎付近→中獣舎付近)



③主な獣舎の展示・整備

◎既存獣舎の利活用

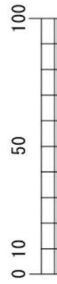
- 獣舎ごとに劣化調査を実施し、必要な補修や展示効果向上に向けた改修を行い、既存獣舎をできる限り活用します。

◎教育、展示効果向上のため新規整備

- いのちのふれあいゾーンを入口付近に移設・拡充し、動物愛護教育センターとの連携向上を図ります。これにより、来園者の体験機会を増やします。(入園・退園時)
- 獣舎新設は、教育展示効果を最大限に発揮できるよう工夫し、動物の特性、生態・行動を観察できる展示を導入します。また、段差解消策や来園者用便益施設との連携も考慮します。
- 生息地別ゾーンにまとめ教育効果向上を図り、現在の飼育種をもとに生息地を再現した展示を図ります。
- 動物の福祉（環境エンリッチメント）を踏まえた施設の改善を推進します。

獣舎配置計画図

S=1:2,000



水辺の動物ゾーン

バードゾーン

ふるさと動物ゾーン

北アメリカゾーン

バイソン

キリン舎

アフリカゾーン

ヒヒ類、サル舎

類人猿ゾーン

ゾウ・猛獣ゾーン

いのちのふれあいゾーン

ゾーニング

凡例

獣舎

- ふれあい・教育効果の向上を図るゾーン
- 動物種による違いを比較するゾーン
- 生息地環境を考えるゾーン
- 人気動物を観察するゾーン
- 現獣舎を使用（軽微な補修・修繕は行う）
- 現獣舎を補修して使用
- 現獣舎を基に改修を行う
- 新規に整備を行う

④休憩所等の便益施設

◎要望の多い来園者便益施設の整備

- 利用率の高いエントランストイレを手始めに、おおむね 10 年で洋式化・バリアフリー化を進めます。

意見要望：古い、暗い、洋式・洗浄式でない、おむつ替えができない。

- 冷暖房完備の休憩所の新設を検討します。

意見要望：天候、季節にかかわらず安心して休憩できる場所がない。

遠足時に食事を食べる場所がない（屋根があるのはゾウ広場のみ）

- エントランス広場付近への売店の新設を検討します。また、園内飲食施設の拡充については、民間活力の導入を促進します。

意見要望：お土産を買う場所がない。オリジナルグッズが欲しい。

動物園のみのオリジナルメニューが欲しい。飲食メニューの充実

(2) 動物園を支える基盤に関わる分野（電気、機械設備等）の整備方針

①電気、機械などの基盤設備

- 園内の污水处理施設、受電施設は、昭和 58 年に移転開園した際に整備したもので、経年による劣化が顕著であり、優先度が高いことから、両施設の改修を進め、安定的に稼働させます。

②樹木の適切な管理

- 来園者の安全確保と動物逃亡防止のため、適切な管理を実施します。

③駐車場の確保

- ゴールデンウィークや春・秋の週末を中心に満車となることが多く、渋滞が発生しています。平成 29 年春の館山寺スマートインターチェンジの開設、動物園のリニューアルでの更なる混雑が予測されるため、駐車場の増設を検討します。

④環境に配慮した持続可能な施設に向けた取り組み

- 光熱水費削減につながる省エネルギー対策や、太陽光等の新エネルギーの導入など施設の維持管理コストの削減に取り組みます。
- 排水の自家処理など周辺環境に影響を与えないしくみを継続します。

(3) 施設整備スケジュール

- 概ね 10 年間で第 1 期の整備期間とします。第 2 期、第 3 期は、第 1 期の進捗状況を見て、期末に整備効果を検証し、計画を見直します
- 第 1 期は、スタッフの創意工夫による改善を積極的に実施しながら、更なる教育効果の向上を図るため、「いのちのふれあいゾーン」を重点的に整備します。
- 第 1 期は、来園者から要望の多い便益施設（トイレ・休憩施設）の新設・改修を進めます。
- 第 1 期は、老朽化した基盤施設の安定的稼働を確保します。

	第 1 期			第 2 期			第 3 期		
いのちのふれあいゾーン									
ふれあい広場の新設									
フライングケージ改修									
カンガルー舎などの修繕									
クモザル舎の修繕									
エントランス売店の新設									
トイレなどの改修									
ゾウ・猛獣ゾーン									
立体中獣舎の新設									
ニホンザル山の補修									
猛獣エリアの補修									
ゾウ舎などの修繕									
全天候型休憩施設の新設									
バードゾーン									
フクロウ舎の新設									
猛禽舎の新設									
クジャク舎の新設									
ツル舎の補修									
類人猿ゾーン									
ヒヒ・サル舎の新設									
コモンの森の改修									
類人猿舎の改修									
アフリカゾーン									
キリン舎などの改修									
北アメリカゾーン									
バイソン舎の修繕									
ふるさとの動物ゾーン									
ヒグマ舎の修繕									
水辺の動物ゾーン									
水禽舎の補修									
アシカ舎の修繕									
ペンギン舎の修繕									
ホッキョクグマ舎の新設									
基盤設備									
汚水処理施設									
電気施設									

浜松市動物園再生基本計画

平成 28 年 9 月

浜松市動物園

〒431-1209 浜松市西区舘山寺町 199

TEL:053-487-1122